

OfByForコラム 地域の 地域による 地域のための Something NEWS

第39回

地方にこそ書籍文化の拠点が必要

「ブック&カフェ」がその場づくりとなる

一般社団法人 光楓座
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事 佐藤建吉

▼出会いがはじまる新境地

このコラムの表題に「地域を冠しているが、そこには人が住んで

いる。「地域社会」と呼ばれる所以である。地球

には76億人が生き、日本

には1億3000万人が暮らしているという。近

年は、大都市集中、とり

わけ東京一極集中で、人口分布格差が大きいが、

それでも、どこに行っても人が住んでいる。山間

地でも、かつては人が住んでいた気配がする。

すると人には生き様があり、それぞれの人には歴史がある。ある知人は

映画『万引き家族』を評して、70歳の人にはもち

ろん歴史があるが、3歳の子供にも歴史がある、

と述べた。人生は、運命と重なることもあるが、

年々の、あるいは時事刻々の出来事や出会いが

それをつくる。

2週間ほど前、ある会合である人と出会いがあ

り、彼の人生の機微に触れることができた。人生

は流転であるというが、左右に巻きながら流れる

渦を連想する。彼の話題は、いずれ記述したい

が、もう一つ別の出会いがあった。それは人では

なく地域の流転との出会いである。それは出会いであろうが発見でもある。

▼軽井沢での出会い

今年の夏は軽井沢も暑い。ついに、軽井沢でも

エアコンが必要な気候になってしまったのかとも

思う。そうしたものは我が別荘にはない。木漏れ

日が木の葉に緑の濃淡をつくるが、これも機微ある

アートにも似て涼やかさを感じる。

そんなある日、軽井沢の街中にクルマで出かけた。国道の沿道の建物や

景観も新しくなり、老舗スーパーも名前を英語綴

りになった。その隣に「軽井沢書店」の漢字看

れられている。

店には他に正面入口があるが、

その動線には軽井沢関

連の本が島状の低い書

棚に配架されている。

地域関連本のコーナーもある。近

くの書棚には、週刊誌

や新刊の話題本が並んでいる。ち

ょうど夏休みで、子供の課題の本やマンガ本もある。最近

は、文庫本の表紙が明るい。明治の作家も驚いているかもし

ねない。

街中をひと回りし、く

だんの「軽井沢書店」に

クルマを停めた。入ると、そこはカフェになっ

ていた。多くの客が本のページを開き、コーヒー

を飲んだり、会話したりしている。PCを使っている人も

いる人もいる。

カフェエリアの向こうには本が並んでいる。先

に進むと平置きに本がある。その先には、書棚が

並んでおり、確かに本屋である。が、傍らには、

島状の展示台には、陶器や布製のグッズが陳列さ

れている。

店には他に正面入口があるが、

その動線には軽井沢関

連の本が島状の低い書

棚に配架されている。

地域関連本のコーナーもある。近

くの書棚には、週刊誌

や新刊の話題本が並んでいる。ち

ょうど夏休みで、子供の課題の本やマンガ本もある。最近

は、文庫本の表紙が明るい。明治の作家も驚いているかもし

ねない。

都会からの避暑客や別荘族もいるので、自然の本やDIYの本、趣味の本、田舎暮らしの本もあ

る。筆者も心惹かれるものが多い。また、最新のインベシジョンやマネジ

メントの本も多い。ブックチェーン、デジタル

資本主義、マインドチェンジを勧める本なども多

い。最近の話題では、流行の日本酒の本も多く取

り揃えられている。こうして回っている間

に、筆者も、5、6冊の本を購入候補として手に

していた。

▼Book&Cafe

先述したように、この店舗には、食器や扇子な

ども並べられており、もちろん買つこともできる。

本の世界から飛び出た様な雰囲気である。この書

店は、カフェもあり、従来の書店の枠を超えた店

舗つくりとなっている。

こうした背景を伺いし

たく、店員に社長や店長

はいませんか、と尋ね

ることができた。そこで

状であるが、デジタル化、インターネットの普及の反動である。人間

の暮らしで、文字のない暮らしはない。紙と印刷物による文字文化も

なくならない。人の暮らしが、都市だけでなく地方や田舎の街にも根付くために

は、インターネットの技術も相乗して効果をもつ。

それを、つくりあげるの

は、人の創造力である。

書籍文化は、新たな創造力をつくることである。

いま「クールシェア」という概念があり、B o k & C a f e は、この

役割も担うことができ

る。B o k & C a f e を広めたい。

軽井沢のBook & Cafe

